

第 1 回検討委員会における意見と対応

令和 7 年 5 月 30 日に開催された第 1 回岩倉市都市計画マスタープラン及び緑の基本計画検討委員会において、委員より以下のようなご意見を頂戴しました。これらのご意見を踏まえ、事務局として以下の対応を行うこととしました。

なお、委員会において回答したご意見等については、本資料では割愛しています。

No.	意見の概要	事務局の対応
1	世帯人員の減少で住宅需要はあるが、住宅需要は続く一方で、増加する空き家の有効活用も検討する必要がある。	岩倉市の空き家率は現状低い傾向にあり、令和 5 年時点の「賃貸・売却用及び二次的住宅を除く空き家率」は 2.8%と、愛知県の平均（4.3%）と比較しても低い水準となっています。市では、空き家バンクの運用や空き家解体費用の補助制度など空き家の利活用や適正管理に向けた施策を継続的に実施しており、今後も住宅需要とのバランスを踏まえた対応を進めてまいります。
2	岩倉市では、名古屋市への通勤利便性や近隣の大規模事業所へのアクセスの良さから住宅需要が高く、特に駅近の立地が重視される。	住居系拡大検討ゾーンの候補地を比較検討するにあたり、評価指標として「名古屋駅までの所要時間」および「交通結節点までのアクセス性－最寄り鉄道駅」を新たに追加し、名古屋駅および最寄り駅へのアクセス性が高い地域を高く評価しました。（資料 3 P 2 参照）
3	住居系拡大ゾーンの候補地検討では、すべての指標が同等に扱われているため、優先順位の設定が必要である。	岩倉市は名古屋市近郊に位置し、豊かな自然環境を有するという特性を活かし、「くらしの利便性」および「くらしの快適性」に関する評価指標を複数設定することで、他の指標より重みづけを行いました。これにより、地域のポテンシャルと実現性を反映した実効性の高いゾーン選定につなげました。（資料 3 P 2 参照）
4	耕作放棄地のデータがあれば、評価の説得力が増すため、状況を教えてほしい。	住居系拡大検討ゾーンの候補地における耕作放棄地の分布は限定的であり、評価への影響が軽微であると判断されることから、本指標については評価対象から除外しております。（資料 3 P 9 参照）
5	自然環境を活かしながら、新たな仕組みを構築し、その価値を担保していくことで、岩倉市らしいまちづくりが実現できる。	住居系拡大検討ゾーンの候補地を比較検討するにあたり、評価指標として「緑の多さ」を新たに追加し、豊かな自然環境に恵まれている地域を高く評価しました。（資料 3 P 2 参照）